

11月 「留学生としての自分」

①2年男子

留学生としてこの学校で3カ月過ごしました。学校内での留学生の立場ですが、ほかの生徒と何ら変わりありません。日本から僕たち留学生が派遣された理由としては、アメリカの文化を知り、日本の文化を伝える、ということですが、こちらではある程度の成績をとってください、と最初の時点で言われました。そのある程度の基準は聞いていませんが、平均以上くらいだと思います。留学前に、何人かの留学経験者の方に話を聞いてきましたが、特別扱いされることはない、と言われてきました。実際こちらに来てみて、まあその通りでした。いくら留学生だからといっても、周りの生徒が声をかけてきてくれるわけでもなく、自分から少しずつ名前や顔を覚えてもらっていきました。その点についてはものすごく苦勞し、大変だったところですが、逆に名前や顔を覚えてもらえば、勉強も教え合うことが出来たり、学校内で会っても挨拶するようになりました。そこはとても嬉しかったです。このような点では留学前の自分の想像をこえるものであったと言えます。



②2年男子

Thanksgiving も終わり僕の家ではクリスマスツリーがすでに置かれていて、アメリカはクリスマスの雰囲気がいよいよ漂い始めています。僕は朝4時半に起きてブラックフライデーを経験してきました。

僕の学校はほぼ毎年いろいろな国からの留学生が来ているので生徒が最初に僕にあった時も驚きというよりも今年も来たか〜というようになりアクションだったように思います。実際今年ドイツ、日本、プエルトリコからの留学生が5人います。僕が学校に行くとすぐに留学生への小さな歓迎会が図書館でありました。そして基本的にみんなとても優しいです。特に来た最初の頃は興味を持ってもらったりわからないことを教えてもらったりしてもものすごく優しく接してもらいました。しかしもちろん友達や先生の対応も変わっていきます。来てから1ヶ月くらいで普通の扱いになります。

今まで話しかけてくれていた友達には自分で話しかけないと話しが続かなくなりました。また先生からも普通に授業中に指されるようになりました。なんか嬉しいような悲しいような気持ちでした。今ではほとんど特別扱いされることはありません。そして思ったことは生徒や先生も日本の文化を知りたがっているんだなということです。なので機会があるたびに日本の文化などを紹介するように心がけています。



ホストファミリーのおじいちゃんの森でストーブのための木を切ってきました